

七夕の夜空に大輪の花 第21回 北秋田市米代川花火大会



秋田県内では最も早い時期に開催される恒例の第21回北秋田市米代川花火大会（永井孝実行委員長）が7月7日、米代川河川公園を会場に開催され、約2万人の見物客が光と音のショーに酔いしれました。

花火大会では、4号から10号の割物花火、華やかなスターメインなどが次々と打ち上げられ、漆黒の夜空を華やかに彩りました。会場を沸かせたのが大型花火の「一尺玉」。上空300メートルほどで半径150メートルもの大輪を咲かせると大きなどよめきが起りました。

フィナーレは「明日への希望の花が咲く」と題したスペシャルスターメイン。会場全体を明るく浮かびあがらせるほどの色とりどりの連射花火がダイナミックに夜空を焦がし、会場からは拍手と歓声が沸き起りました。  
（写真はフィナーレ）

五穀豊穡を祈り 大太鼓を打ち鳴らす

7月14・15日

八幡宮綴子神社例大祭



「大太鼓祭り」として知られている八幡宮綴子神社（武内尊英宮司）の例大祭が7月14日（宵宮）、15日の2日間にわたり行われ、大太鼓をはじめ、獅子踊りなど郷土芸能を奉納しました。

今年の例大祭は上町が当番町。上町の太鼓は最も大きなものが直径3・80m、二番目に大きなものでも3・30mあります。

本祭りの15日は、取り仕切り役の露払い太夫を先頭に、棒術の使い手ヤツパリ、団旗、陣旗、豊年旗、槍や鉄箱を持った奴、袴に陣笠姿の侍など100人あまりの出陣行列が上町の北端を出発。3張りの大太鼓を打ち鳴らしながら綴子神社に向かい、地元の人たちや観光客が見守る境内で奉納行事を行いました。

また、奉納行事前に行われた作占い湯立ての神事では、武内宮司から「今年は平年作。水不足の心配があるが、作物には影響しない」と占い結果の説明がありました。

第20回 合川あじさいまつり



第20回合川あじさいまつり（三浦一英実行委員長）が7月15日、三木田の翠雲公園で開かれ、大勢の家族連れが見頃を迎えたあじさいや各種イベントを楽しみました。

当日は小雨がふる天候でしたが、ステージでは、バリトン伊藤さんが司会を務め、歌謡ショーや各種ゲーム、第20回記念餅まきが行われたほか、市無形民俗文化財の福田獅子舞、よさこいソーランの三ツ井恋舞と素波里路の演舞が披露されました。また、地元三木田自治会による全長50メートル流しソーメン、あいかわ保育園児による野点、あじさいウオークなど盛りだくさんのイベントで盛り上がりしました。

